

|                  |                                                                                                                                                                                   |      |    |                   |       |  |
|------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------|----|-------------------|-------|--|
| 科目名<br>Subject   | 美術材料学<br>Workshop of Materials for Beauty                                                                                                                                         |      |    | 教員名               | 栗本 佳典 |  |
| 開講年次             | 1                                                                                                                                                                                 | 開講時期 | 前期 | 単位                | 4単位   |  |
| 必修／選択            | 必修                                                                                                                                                                                | 授業形態 | 演習 | 時間                | 60時間  |  |
| 実践的教育            | ×                                                                                                                                                                                 |      |    |                   |       |  |
| 主な学習効果           | 美容技術とデザイン力、すなわち美容における実践力                                                                                                                                                          |      |    | 表現力、すなわち芸術における実践力 |       |  |
|                  | △                                                                                                                                                                                 |      |    | ◎                 |       |  |
| 科目の概要            | 作品制作には、実にさまざまな材料が使われます。この授業では主に絵画に用いられる各種の素材や画材の基本的な性質を演習を通して理解します。鉛筆、パステル、ペン、水彩絵の具などを使用し、それぞれの材料による違いや幅広い表現技法を学びながら作品を制作します。<br>また、間接表現であるマチエール木版画やヨーロッパで発展した銅版画の特性を知り、作品を制作します。 |      |    |                   |       |  |
| 授業方法             | 対面授業                                                                                                                                                                              |      |    |                   |       |  |
| 授業の目標            | さまざまな画材の基本的な特性を理解し、それらを使って性質の異なる作品を制作することによって表現力を高め美術に関する知識の幅を広げ、人間の持っている創造する力や工夫する力を発揮できるようになる。<br>また、新しい木版画技法であるマチエール版画や銅版画を理解し制作することによって間接表現を知り、美術表現の幅を広げ、多様な作品が制作できるようになる。    |      |    |                   |       |  |
| 時間外学習<br>(予習・復習) | 毎回、関連する美術作品の画集等を見て、その材料や技法について研究しレポートを作成して下さい。1回ごとの研究・作成時間は120分程度とする。                                                                                                             |      |    |                   |       |  |
| 教科書・教材           | 教科書                                                                                                                                                                               |      | なし |                   |       |  |
|                  | 教材                                                                                                                                                                                |      | なし |                   |       |  |
|                  | 使用設備・備品                                                                                                                                                                           |      | なし |                   |       |  |
|                  | 参考文献                                                                                                                                                                              |      | なし |                   |       |  |
| 評価方法             | 材料や技法の理解度 20％ 課題に取り組む姿勢 50％ 課題作品の完成度 30％                                                                                                                                          |      |    |                   |       |  |
|                  | なお、出席数が不足の場合は評価対象とはしません。                                                                                                                                                          |      |    |                   |       |  |
| 学生へのフィードバックの方法   | 個別に実地指導を行います。                                                                                                                                                                     |      |    |                   |       |  |
|                  |                                                                                                                                                                                   |      |    |                   |       |  |
| 履修上の注意           |                                                                                                                                                                                   |      |    |                   |       |  |
| 本科目履修と関連する資格     | 資格名                                                                                                                                                                               |      |    |                   |       |  |

| 授業計画    |               |                                   |           |
|---------|---------------|-----------------------------------|-----------|
|         | 授業内容          | 到達目標                              | 予習・復習・備考  |
| 第 1 回   | オリエンテーション     | さまざまな描画材料があることを知り、識別することができる。     |           |
| 第 2 回   | 顔料とメディウムの関係   | さまざまな顔料の特質とメディウムの関係を知り試作することができる。 | スケッチブック使用 |
| 第 3 回   | 水彩表現の基礎       | 水彩絵の具の特性を知り、簡単な色彩表現ができる。          | スケッチブック使用 |
| 第 4 回   | 水彩による自由表現     | 水彩絵の具の特性を生かして自由に表現することができる。       | スケッチブック使用 |
| 第 5 回   | コンテによる人物描写①基礎 | コンテの特徴や描画方法を知り描画することができる。         | 色画用紙使用    |
| 第 6 回   | コンテによる人物描写①基礎 | コンテの特徴や描画方法を知り描画することができる。         | 色画用紙使用    |
| 第 7 回   | コンテによる人物描写②濃淡 | コンテによる濃淡を学び描画することができる。            | 色画用紙使用    |
| 第 8 回   | コンテによる人物描写②濃淡 | コンテによる濃淡を学び描画することができる。            | 色画用紙使用    |
| 第 9 回   | コンテによる人物描写③明暗 | コンテを使い、明暗を意識して人物の顔を立体的に描くことができる。  | 色画用紙使用    |
| 第 1 0 回 | コンテによる人物描写③明暗 | コンテを使い、明暗を意識して人物の顔を立体的に描くことができる。  | 色画用紙使用    |
| 第 1 1 回 | ペン画①基礎        | ペンによる点描や線描の表現方法を知り描くことができる。       | B3ボード使用   |
| 第 1 2 回 | ペン画①基礎        | ペンによる点描や線描の表現方法を知り描くことができる。       | B3ボード使用   |
| 第 1 3 回 | ペン画②描画        | ペンによる点描や線描をおこなうことで描画の幅を広げることができる。 | B3ボード使用   |
| 第 1 4 回 | ペン画②描画        | ペンによる点描や線描をおこなうことで描画の幅を広げることができる。 | B3ボード使用   |
| 第 1 5 回 | ペン画③表現        | 描画の幅を広げ、完成度の高い作品を制作することができる。      | B3ボード使用   |

| 授業計画    |                 |                                        |           |
|---------|-----------------|----------------------------------------|-----------|
|         | 授業内容            | 到達目標                                   | 予習・復習・備考  |
| 第 1 6 回 | ペン画③表現          | 描画の幅を広げ、完成度の高い作品を制作することができる。           | B3ボード使用   |
| 第 1 7 回 | 木版画マチエール技法①基礎   | 版木に凹凸をつけるマチエール版画の表現法を知り作成することができる。     | 版木、版画用紙使用 |
| 第 1 8 回 | 木版画マチエール技法①基礎   | 版木に凹凸をつけるマチエール版画の表現法を知り作成することができる。     | 版木、版画用紙使用 |
| 第 1 9 回 | 木版画マチエール技法②版の制作 | マチエールの効果を意識しながら版を作成することができる。           | 版木、版画用紙使用 |
| 第 2 0 回 | 木版画マチエール技法②版の制作 | マチエールの効果を意識しながら版を作成することができる。           | 版木、版画用紙使用 |
| 第 2 1 回 | 木版画マチエール技法③刷り   | 版画インクの特質や刷りの効果を知り、制作することができる。          | 版木、版画用紙使用 |
| 第 2 2 回 | 木版画マチエール技法③刷り   | 版画インクの特質や刷りの効果を知り、制作することができる。          | 版木、版画用紙使用 |
| 第 2 3 回 | 銅版画①基礎          | 版に線を刻む銅版画の表現法を知り作成することができる。            | B3ボード使用   |
| 第 2 4 回 | 銅版画①基礎          | 版に線を刻む銅版画の表現法を知り作成することができる。            | B3ボード使用   |
| 第 2 5 回 | 銅版画②版の制作        | 銅版画の効果を意識しながら版を作成することができる。             | B3ボード使用   |
| 第 2 6 回 | 銅版画②版の制作        | 銅版画の効果を意識しながら版を作成することができる。             | B3ボード使用   |
| 第 2 7 回 | 銅版画③刷り          | 銅版画の特質や刷りの効果を知り、制作することができる。            | B3ボード使用   |
| 第 2 8 回 | 銅版画③刷り          | 銅版画の特質や刷りの効果を知り、制作することができる。            | B3ボード使用   |
| 第 2 9 回 | 講評会             | 制作した作品をふり返ることにより、各材料による表現の特性を理解し解説できる。 |           |
| 第 3 0 回 | 講評会             | 制作した作品をふり返ることにより、各材料による表現の特性を理解し解説できる。 |           |